

# あなたとともに研修所

みなさんにとってより身近でありたいと願っています!!



平成22年  
6月発行

# けんしゅう

No. 70

宮城県市町村自治振興センター・宮城県市町村職員研修所

〒981-3341 黒川郡富谷町成田二丁目22-1 (東北自治総合研修センター内)

TEL.022-351-5781 FAX.022-351-5780

E-mail:mousikomi@thk-jc.or.jp http://www.thk-jc.or.jp/sityouson/index.htm

## 研修担当職員研修

去る4月22日(木)～23日(金)に平成22年度研修担当者会議及び研修担当職員研修を開催しました。

研修担当者会議では、平成22年度研修計画や職場との連携によって研修効果を高めるための調査研究事業、市町村の研修担当者と研修所が直接意見交換を行うブロック別意見交換会等について説明を行いました。また、(財)宮城県市町村振興協会から担当の方をお招きし、今年度から青葉寮の宿泊も対象となった同財団の市町村職員研修受講費助成金について説明いただきました。研修所では、この助成金を活用し、一人でも多くの方に研修を受講していただきたいと考えています。

研修担当職員研修では、川端人材開発研究所 所長 川端大二氏を講師にお迎えし、「これからの地方自治体に求められる人材像」や「人材育成論」「効果的な研修の進め方」等、研修担当者の役割・心構えについてお話をいただきました。その中で先生は、「財政状況が厳しいからといって長期的人材育成を縮減することは、将来の先食いである。民間企業は、そのことに気づき、研修を復活させつつある。」また、「人材育成は経営戦略の重要な一翼であるということ認識し、研修担当者は、熱意を持って人材育成に取り組んでほしい。」と話されました。

産官学(民間企業、人事院、大学)において人材育成を専門的に研究された川端先生の講義は、研修担当者の責任の重さや人材育成の重要性、自治体における人材育成の方向性を示す大変実りあるものになりました。



講師：川端人材開発研究所

かわばた だいじ  
川端 大二 氏

### 受講者の声



女川町総務課

すずき りょうた  
鈴木 涼太 さん

研修に向かう途中、「研修」という漠然とした言葉の意味を考える。文字通り「何かを研究し、その道を極めた人の話を聴講することにより、何かを修得すること」国語辞典と合致しているのかは別として、2日間の研修を通し、そんな単純明快なものではないと、恥ずかしながら実感した。

どの自治体でも財政がひっ迫する中で、なおかつ、行政環境のトレンドが著しく変革する昨今、その場所が必要とされている優秀と呼ばれる人材を買うことはおろか、新規採用でさえも容易ではない。一方で、永遠である行政に対する要望や期待は難度を増し、困難を極めるケースも少なくない。しかし、永遠である以上、長期的な視野に立ち将来ビジョンを明確にしながら、それに応えることが行政としての責務であり、当然、それ以上のサービスの提供や環境の整備が常に求められる。

そして、自治体にも「経営戦略」なるものが強く求められる時代でもある。ゆえに、多種多様な研修により、必要とされる人材を育成すること、つまり、研修により育成される能力・資質・自己啓発力などを行政に還元することで、課題・問題を解決することが、その求められるものの実現への近道となるはずである。

人材あつての経営戦略。研修を受講、そして、企画・検討することにより、地域や職場の課題を模索する。幸いにも我々公務員には、公費により研修を受講できる環境が整っているようだ。

限られた人員や財源の中で、真に必要とされる職員の人材育成は、研修担当者しだい、と言っても過言ではないのか。担当となって間もない今、その自信は全くないが、近い将来自信を持ちたい。そう思えたのが、この研修を通しての一番の成果ではないだろうか。

COOL BIZ

## 研修生にも地球にも優しい研修所

研修所はすべてにやさしく…… クールに受講して、“気づき”を得よう！ 実施期間：9月まで

# 防災研修を受講して

“近い将来宮城県沖地震は必ず発生する”  
という話は何度か耳にしていたので、漠然とした不安はあったものの、実際に自分の住む地域で大規模地震が発生したらどうするか、その備えは・・・という具体的な考えたことがありませんでした。

今回の研修で、岩手・宮城内陸地震発生時の被害状況や避難者の状況、48日間開設していた避難所の詳細等を聴かせていただき、改めて災害の恐ろしさや防災対策の大切さについて考えさせられました。

なかなか難しいことですが、平常時から災害を意識し、助けあえる地域と防災体制をつくっていくこと。それが結果的に犠牲者をださないことにもつながるのではないかと感じました。

私は現在地域包括支援センターに所属しており、地域の高齢者の方々とお会いする機会が多くあります。

今後はその機会を生かして住民の皆様と平日頃からの心構えや今からできることは何かについて一緒に考え、できることから実行していきたいと思えます。

まだ防災研修を受けていない皆様、日常業務に追われている毎日とは思いますが、来たるべき災害に備えて一度受講してみたいはいかがでしょうか。



川崎町保健福祉課  
むらかみ みきこ  
村上 美紀子さん

## 市町村職員研修運営委員会の委員紹介

研修運営委員会は、研修カリキュラム等を研修所と一緒に検討する委員会です。市町村、関係団体の職員の中から10名の方に委嘱しています。

役職	団体	氏名
委員長	名取市	安倍 卓
委員長代理	加美町	佐藤 敬
委員	石巻市	道家由美子
委員	白石市	洞口 繁
委員	東松島市	土佐 淳
委員	大崎市	三野宮 健
委員	村田町	新貝まさ子
委員	富谷町	日野 節子
委員	女川町	三浦 久嗣
委員	宮城県町村会	保科 秀則

(敬称略)

## 宮城県市町村自治振興センター・宮城県市町村職員研修所 職員紹介



後列左から  
結城・佐藤・木村  
大津・齋藤・早坂  
前列左から  
本田・山崎・渡辺  
高橋

職名	氏名	配属年月	備考
センター事務局長兼研修所長	渡辺 常幸	H21.4.1	塩竈市派遣
センター事務局次長兼総務課長	山崎 恒男	H22.4.1	蔵王町派遣
センター事務局総務課	早坂 敏美	H22.4.1	嘱託
研修所次長兼研修課長	高橋 祐一	H21.4.1	白石市派遣
研修所研修課 主査	齋藤 博	H20.4.1	岩沼市派遣
" 主査	大津 昌美	H20.4.1	利府町派遣
" 主事	木村 竹志	H22.4.1	女川町派遣
" 主事	佐藤 拓人	H22.4.1	名取市派遣
"	本田 作夫	H19.4.1	嘱託
"	結城 みき	H22.4.1	臨時職員

## 所長の独り言

平成21年度の研修修了者の実績がまとまりました。右の表は、平成16年度から21年度までの修了者数の推移と、市町村職員数からみた職員1人当たりの受講機会を示したものです。

平成21年度の修了者数は、総数で2,571名と対前年で42名減少していますが、階層別研修では1,576名と、前年より112名増加し、これは平成16年度と同じ修了者数となっています。

また、青葉寮宿泊者数は3,424泊に達し、ここ数年減少傾向にありましたが、対前年比10%の伸びを示しました。

市町村職員数は、この期間、定員適正化計画を上回る10%以上の削減が行われていますが、修了者数は2,400~2,500人とほぼ横ばいの状態にあり、研修所としては職員1人当たりの受講機会が年々増えているものと判断しています。

皆様方の協力により、平成21年度は一定の成果を残せたものと考えております。平成22年度も皆様とともに「分権と協働の時代の研修」を進めてまいります。

(単位：人・泊)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
修了者数	階層別研修	1,576	1,191	1,322	1,286	1,464
	専門研修	1,194	1,097	1,169	1,316	1,149
	合計 A	2,770	2,288	2,491	2,602	2,613
市町村職員数 B	11,081	10,955	10,912	10,768	10,142	9,850
職員1人当たりの受講機会 A/B	0.25	0.21	0.23	0.24	0.26	0.26
延べ宿泊者数	4,276	3,270	2,965	3,066	3,113	3,424

※市町村職員数は給与実態調査における一般行政職、税務職、福祉職員数の合計